

平成29年 2月16日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢
(コード2388 東証 J A S D A Q市場)
問合せ先 開示担当 小竹 康博
(TEL 03-6225-2207)

GL、9四半期連続で過去最高益

当社の重要な子会社でありますSET(タイ証券取引所)上場のDigital Finance会社Group Lease PCL(以下GL)は、2016年第4四半期業績発表の内容について、プレスリリースを公表いたしましたので、その内容を日本語にてご紹介いたします。

(以下、GL社公表のプレスリリースの翻訳)

2017年2月14日

件名: GL 2016年第4四半期純利益 最高益更新

タイ証券取引所上場企業でDigital Finance事業を手掛けるGroup Lease Public Company Limited(以下、GL)は、2016年最終四半期(3ヶ月間)において純利益324.4百万タイバーツを計上し、9四半期連続での純利益最高益更新を達成した。第3四半期までの9ヶ月間での純利益738.4百万タイバーツに、第4四半期の純利益を合わせ、年間純利益で1,062.8百万タイバーツを計上、前年比で82.34%増と大幅な伸びを記録した。

この2016年年間純利益の結果は、経営陣の目標であった10億タイバーツを超え、GLが事業を行う全ての国、特に主要2ヶ国、タイ・カンボジア市場において業績が好調であることを証明した形となった。

また、2016年第4四半期利益においては昨年29.99%の株式を取得したスリランカのファイナンス企業Commercial Credit & Finance PLC(以下、CCF)からの利益貢献が初めて開始され、非常に重要で意味のある四半期となりました。

2016年最高益を達成したにも関わらず、2017年は、本業自体の成長と多数のM&Aの実行によりグループ業績は更に力強く伸びるとGL会長兼CEOである此下益司氏は述べた。

まず始めに、2017年CCFから年間を通して29.99%持分の利益がGLに連結される。CCFは順調な経営が続いており、前回の業績見込よりも高い利益計上で推移していると此下氏は説明する。CCFの2017年の当初の純利益見込は30百万米ドルであったが、その後32百万米ドルへ上方修正を行っている。

スリランカ以外にも、GLはミャンマーにおいて完全子会社化したマイクロファイナンス企業 BG Microfinance Myanmar Co., Ltd. (以下、BGMM)の本格稼働を開始する。また、ミャンマーのウイスキー王(有力実業家)でミャンマー中央銀行からライセンスを受けているファイナンス企業 Century Finance を所有するAung Moe Kyaw氏との戦略的パートナーシップによる事業連携も開始する。

BGMMは現在、ミャンマー全土において30支店を営業しており、今年、少額ローンやグループローンを拡大させ、50百万米ドルの貸付を見込んでいる。また、Century Financeとのジョイントベンチャーによりサービス会社を設立し、チャネリングサービス(Century Financeへの手数料ベースの顧客獲得など)を展開し、こちらも同額の50百万米ドルの貸付を見込んでいる。この目標が達成されれば、合わせて100百万米ドル規模のポートフォリオが生み出されることになる。

一方で、GL Finance Indonesia (以下、GLFI) は、昨年の事業開始以降、積極的な拡大を続けている。此下氏はインドネシアのポートフォリオは、消費者ローンやマイクロファイナンスなど様々なローン構成により、今年200百万米ドル規模にまで拡大すると見込んでいる。2.5億人以上の人口でアセアン最大の市場にて、GLFIは今後数年において、かなり大きなグループへの利益貢献が続くと期待される。

カンボジア事業においては、グループへの利益貢献面でタイを超える存在となってきた。此下氏は、カンボジア子会社GL Finance (以下、GLF) は2017年末までにポートフォリオ規模を現在の約2倍の400百万米ドルまでの拡大を見込んでいる。

カンボジアはGLにとって、まさにサクセスストーリーとなった。カンボジアで最も人気のあるオートバイブランドのホンダとの包括フランチャイズ契約を通して、GLFはオートバイリース市場を支配し、クボタの農機具やソーラーパネルのリースも拡大させている。GLのITチームも低コストながら非常に有効なDigital Finance Platformの開発を遂げ、そのPlatformは、GLが事業を展開する他の市場においても現在活用されている。

GLのビジネスモデルであるDigital Finance Platformと有効なITシステムを活用することにより、新しい市場に非常に速く進出が可能であると此下氏は述べる。現在グループとしてタイ、シンガポール、カンボジア、ラオス、ミャンマー、インドネシア、スリランカの7ヶ国で事業を展開している。此下氏は、今年年頭に、今年アフリカや東ヨーロッパにおいて新規13ヶ国進出を果たし、合計で20ヶ国での事業展開を見据えていると公表している。これらの積極的な拡大計画は、GLの戦略的目標である“グローバル企業”へのステップとして極めて重要な意味を表している。

以 上